

経済学研究科におけるFD活動 ー近年における新たな取り組みの紹介ー

学部教育

[1] 2009年度より入門ゼミ開始

論文入試に加え、理系入試の導入による、さらなる学生の多様化に対応
(数学の補習、レポート・論文の書き方などアカデミックスキル、経済学の導入教育)

必修ではないが、入学時にクラス指定

ーほぼすべての新入生が登録

ー必修でないことにより、脱落者も

反省会を実施、その内容については

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/index.php?plugin=attach&refer=fd&openfile=fd20091105.pdf>

[2] 2009年度前期の学部向け授業評価における新たな取り組み

授業評価アンケートの結果と、成績をもとに各科目の担当教員が講評を作成し公表
学生と教員の間で双方向でメッセージの交換を図る試み

一方的にアンケートに回答を求められるのみであった学生にとっては、授業評価の意義を実感し、今後の授業評価への参加に積極的な反応が期待できる

報告書は

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/gakunai/FD20100201.pdf>

(ただし学内からのアクセスのみに限定)

[3] 2010年度前期にWeb方式授業評価アンケートを試行

従来は授業の最終日にマークシートに記入、読み取り、集計を業者に外注

過去3回の評価結果は安定的

今回はWebを通じて学生が自ら入力、集計はシステムが行う

担当者の負担軽減、コスト削減

回答数の大幅減少、評価結果の低下、評価値の分散増加、などの違いがみられた
教員の間でも意見が分かれた

肯定的意見：自主的に評価に参加した学生の意見こそ、真に重要

回答率向上対策により解決可能

否定的意見：回答数減少による信頼性の低下

評価結果の低下が、部局への評価に及ぼす影響に対する懸念

大学院教育

[4] 2008 年度より経済研究所と連携して大学院基礎科目の授業内容と評価の標準化

- ・ 基礎的科目（ミクロ、マクロ、計量経済学、数学）の授業内容、レベルのコントロール、科目間連携
- ・ 履修に関する指導教員からの requirement 制と組み合わせた基礎科目授業の疑似必修化
- ・ 基礎科目の得点分布に関する申し合わせ作成

[5] 2009 年度に、大学院基礎科目について授業評価を初めて実施

ほとんどの大学院科目は受講者が少数のため、通常の授業評価は困難

基礎科目については受講者が比較的が多いことから、試行的に実施

4 科目、のべ 47 名が回答

報告書は

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/index.php?plugin=attach&refer=fd&openfile=fd20091112.pdf>